

## 21 世紀の家庭教育における一考察

立命館大学大学院応用人間科学研究科  
対人援助学領域 人間形成・臨床教育クラスター  
平井一成

本研究では、現代で子育てをしている母親達の教育熱心さについて調査を行った。教育熱心であることは良いことであると考えられている場合が多いが、しばしば過度の教育によって子どもや親が追い詰められ、事件にまで発展してしまうことがある。また、教育熱心な母親達を「教育ママ」と呼ぶことがあり、過去には怪獣に準えて「教育ママゴン」という言葉も存在していた。そこで、本研究では子育て中の母親達に対して、自身を教育熱心であると考えているか、塾のような学習サービスやお稽古事を利用しているか、子どもに対し娯楽の制限をしているかなどについて質問紙調査を行った。21名から回答を得ることができた。教育熱心を自覚している母親は10名、そうでない母親は4名、どちらでもないと回答した母親は7名であった。塾等の学習サービスやお稽古事については、1つの家庭を除き、ほぼ全ての家庭で何らかのサービスやお稽古事を利用していた。娯楽に対しても1つの家庭を除きほぼ全ての家庭で何らかの制限やルールを取り決めていたが、その方法は家庭によって様々であった。本研究では子育て中の母親を対象に質問紙調査を行い、21の事例を得ることができた。今後は母親以外の家族構成員への調査の他、実際に教育を受ける側である子どもへの調査、加えて国内外の比較なども行っていく必要があるのではないだろうか。